

# 女ing

## 2007年の主役 ⑤

### 第一部

今春、NTTドコモの子会社に二人の女性社長が誕生した。働く女性に育児情報などを提供するダブルスクエアの越原市美社長（44）と、ビジネス街の地域情報を発信するドコモ・ためタンの佐久間珠央社長（32）だ。二年前に導入した社内ベ

ンチャー制度の第一号と二号。百二十八件の提案の中から難関を突破して採用された。小学生の息子二人を持つ越原さんは、仕事と育児の両立で心労が重なり、係長職を退いた経験がある。「両立で苦労する人のために何かしたかった」。自身の苦労と主婦仲間との交流でヒントを得て、自治体や企業の育児支援制度、子どもの病院などの情報を流すコンテンツ（情報の内容）事業を発案した。佐久間さんの場合、食べ歩きが好きな女性社員たちと本社周辺のランチ情報を社内報でまとめたのがきっかけ。今はまだ、契約企業の社内ネット向けに、周辺のレストラン

## 子会社育て自信アリ

や病院、郵便局などの地域情報を流す程度だが、将来は出張先の宿泊・飲食店情報まで手がけ、情報網を全国に広げる。元リクルートの松永真理さんを起用し、iモード事業を成功させたNTTドコモ。関連事業担当者には「女性特有の発想は新たなビジネスを生み、経営の多角化につながる」と期待する。

東京電力の子会社、東京エネルギーリサーチを起業した中村文子社長（48）も、社内ベンチャーに応募した一人。二〇〇〇年六月の設立から三年目の〇三年三学期で累積を解消、「起業から五年以内に累積解消」という条件をクリアした。「黒字といってもまだ

よちよち歩き」と謙遜するが、周囲の評価は高い。生活とエネルギー関連の受託調査が本業だが、もう一つの柱だった消費者向け省エネ提案事業が赤字とみるや、いち早く打ち切った。フットワークの良さと思いついた決断が信条だ。中村さんは「小さくても賢く、スマートな会社になりたい」と意気込む。一日に東証二部へ上場したマンション企画・分譲のフージャースコーポレーション。今春、本社取締役から販売子会社のフージャースハート社長に就任した安藤天利代さん（59）は住宅販売の陣頭指揮を執る傍ら、もう一つの大事な仕事を託された。仕事への責任感や

販売ノウハウを女性社員に伝えることだ。本社から転籍・出向した社員四十人のうち三十一人は女性。長年、マンション業界を渡り歩いた安藤さんは、営業経験の乏しい三十一四十代の女性社員にとって目標になる存在だ。「住宅購入の主導権を握る女性の希望や悩みをじっくり聞き出せるのは女性」。安藤さんは、会社の将来を背負う女性たちの戦力化に自ら範を示す。

企業の可能性を開く新分野で、女性たちの能力を生かそうという試みは、今後も続きそうだ。連載へのご意見、情報をお寄せ下さい。ing@tokyo.nikkei.co.jp)でお寄せ下さい。



株式会社

フージャースコーポレーション